B29 土壌採取により得られる恙虫の特異種

鈴木 博[○]（長大・熱研）、野田伸一・山本 進（鹿大・医）、
内川公人（信大・医）

Peculiar species of trombiculid mites by soil collection

Suzuki, H., Noda, S., Yamamoto, S. and Uchikawa, K.

一般に用いられる宿主、特に、野鼠寄生恙虫の採集方法は恙虫の種構成や季節消長を調査する上で有用である。他方、恙虫未吸着幼虫の生息場所と思われる土壌を採取して鈴木 of Tullgren 装置にかけると、宿主採集法に比べて、恙虫の数は少ない傾向があるものの、種類数は多い。また、採集される恙虫の中には、宿主採集法では採集されない恙虫が含まれていることがある。今回は、鹿児島県大隅半島で行った土壌採取による恙虫の調査から、*Dolosisia* n. sp とこれまで長崎県雲仙の標高700m付近でのみ採集されている *Schoutedenichia nagasakiensis* が 意外なことに人家の周辺の土壌中から採集されたことに言及した。

B30 石川県小松地方におけるツツガムシ病の疫学調査

高田伸弘・矢野泰弘[○]（福井医大）、伊東拓也（北海道衛研）

Epidemiological survey of tsutsugamushi disease in Komatsu, Ishikawa Prefecture

Takada, N., Yano, Y. and Ito, T.

石川県小松市郊外の梯川水系では、数年来ツツガムシ病の散発が言われ、1995年10～11月に6名以上、また1996年も同時期に5名のツツガムシ病患者が発生した。そこで我々は、1995年の12月および1996年の4～5月と10～11月に同地域で広くツツガムシの生息調査を行なった。結果としては、後背山地を発した同水系の数本の川が平野部に出るまで貫流する中山間耕作地に限局して患者が散発し、このほぼ全域で時期を同じくした秋のみにタテツツガムシが高密度に確認された。しかし、近代に至るも潟や氾濫原であった平野の下流域では本種を全く見ず、一方、調査全域のツツガムシ相が単純な中で、フトゲツツガムシは最上流の1地点で見られたにとどまった。他方、1996年秋の患者の血清抗体は、すべて Kawasaki 型と判定できた。したがって、小松地方の本病は、秋のタテツツガムシ媒介が主体であると判明した。